

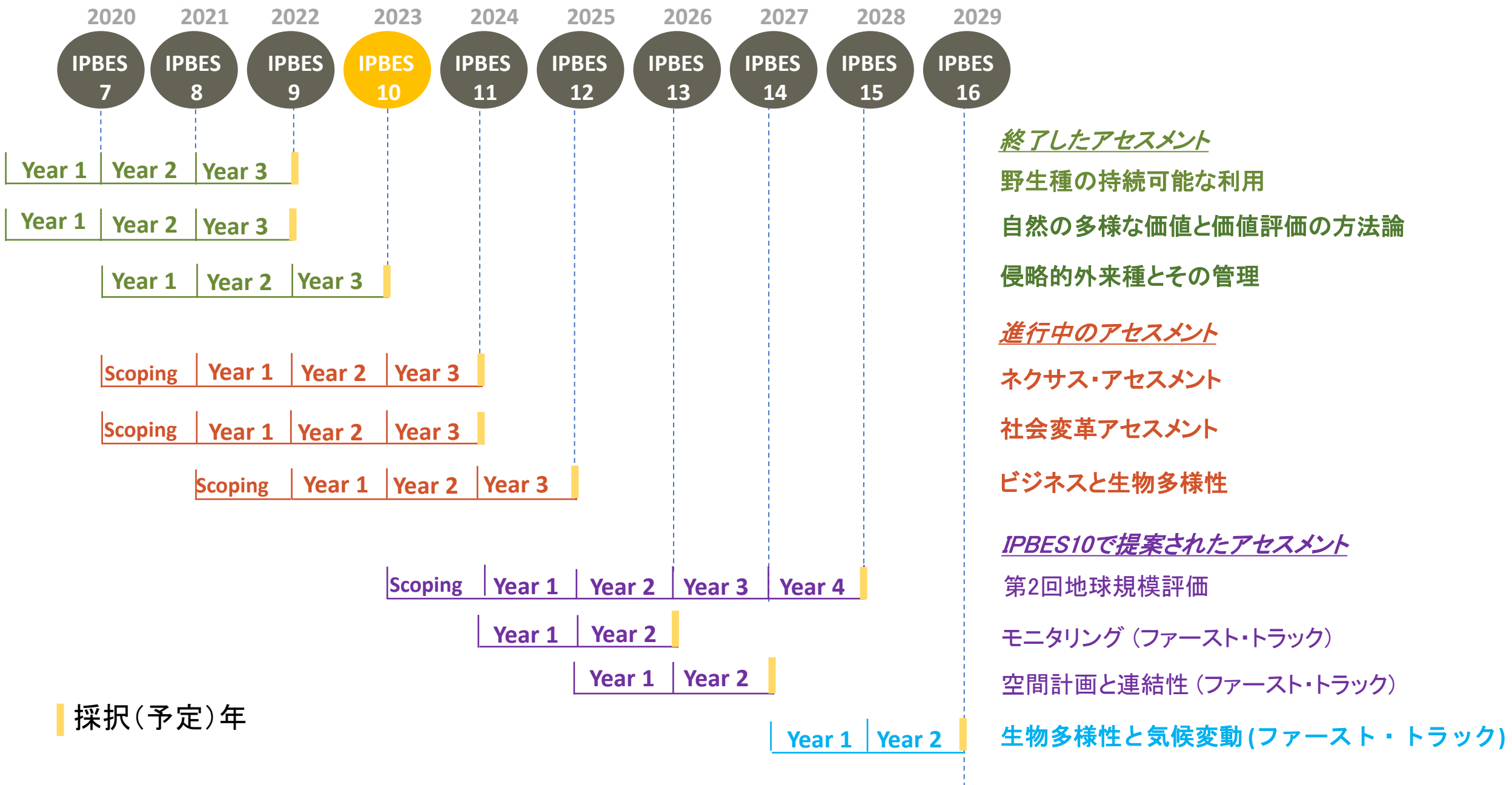
IPBES総会第10回会合に関する 専門家所見

東京大学大学院農学生命科学研究科

橋本 禪

本日の話題

- 新規アセスメントのテーマの選定背景について
- ビューロー選挙について
- タスクフォースの再編について
- IPBESの今後の活動予定



生物多様性条約第15回締約国会合でのIPBESに関する決議

生物多様性条約からIPBESへのリクエスト

1. IPBES第2次地球規模評価の実施要請 (標準的プロセスでの実施)
2. その他の追加的なアセスメントの実施要請 (ファースト・トラックでの実施)
 - a. 生物多様性が包含された統合的空間計画と生態系の連結性に関する方法論アセスメント
 - b. 生物多様性と自然の寄与のモニタリングに関する方法論アセスメント
 - c. 汚染が生物多様性に及ぼす影響と影響の削減・緩和・回避に関するアセスメント
 - d. 自然とのバランスと調和を保ち、母なる地球 (Mother Earth) と共生するための「豊かな生活」に関するアセスメント

優先実施するアセスメントの選定理由

第2次地球規模評価

- 第1次地球規模評価(2019年公表)から経過年数、2040年目標への議論へのインプットのタイミング(2028年頃公表予定)を鑑み、IPBES-11(2024)の後2025年Q1～Q2の着手を想定(未決定)

①モニタリングに関するアセスメント、②統合的空間計画と生態系の連結性に関するアセスメント

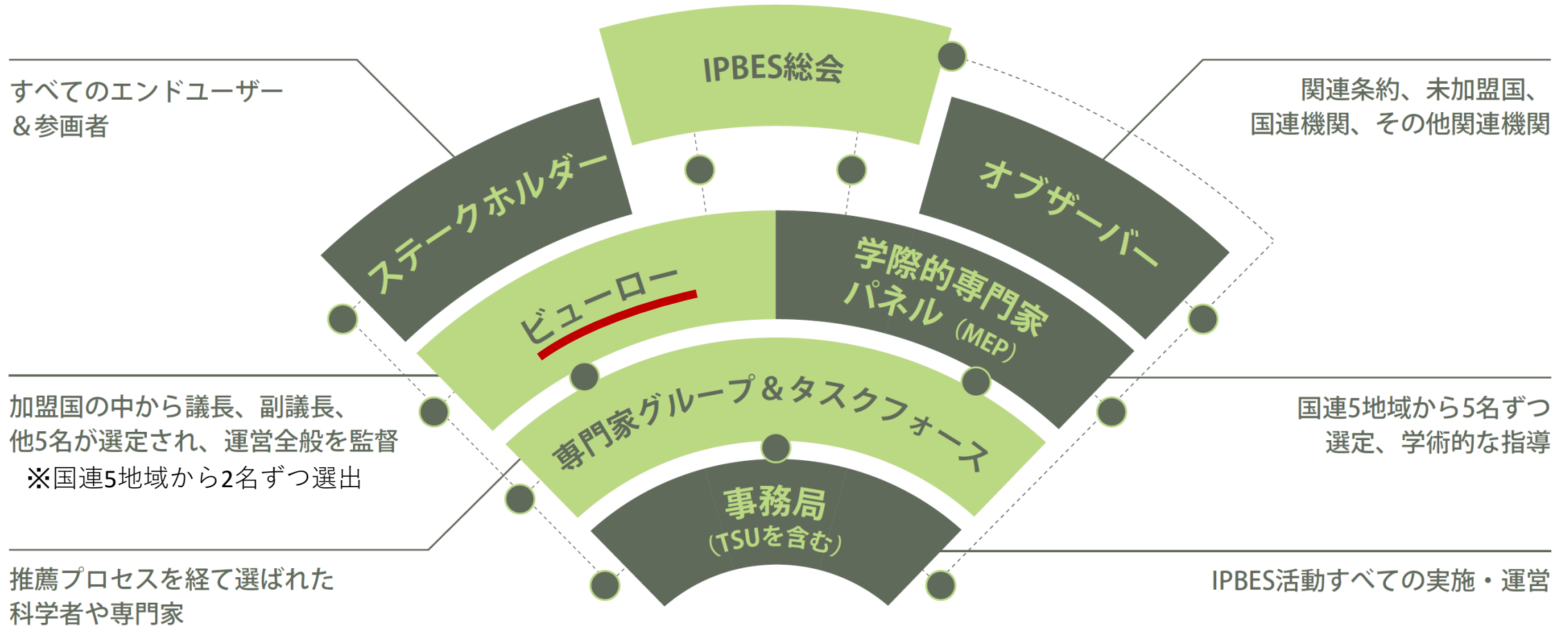
- CBDが2026(COP17)にGBFの中間評価となる地球規模での進捗評価を予定
- IPBESから有用な科学的エビデンスを提示する必要があるためモニタリング(先)、空間計画・連結性アセスメント(後)の実施を提案

本日の話題

- 新規アセスメントのテーマの選定背景について
- ビューロー選挙について
- タスクフォースの再編について
- IPBESの今後の活動予定

IPBESの組織概要について:ビューロー

加盟国*が参加し、概ね1年に1回開催



*2023年9月12日時点で144カ国

ビューロー選挙の概要

選挙の基本ルール:

- ① 地域グループはそれぞれ2名のBureauメンバーを選出
- ② ビューローメンバー2名のうち1名は副議長 (Vice-chair) として選出 (つまり合計5名の副議長)
- ③ IPBESの議長は副議長の中から、地域間のローテーションを原則として選ばれる

過去のIPBES議長

1. Dr. Zakri Abdul Hamid (アジア太平洋地域) (2013-2016)
2. Dr. Robert Watson (西ヨーロッパ・その他地域) (2016-2019)
3. Ms. Ana Maria Hernandez Salgar (ラテンアメリカ・カリブ海地域) (2020-2023)

→次期議長はアフリカか東ヨーロッパと想定

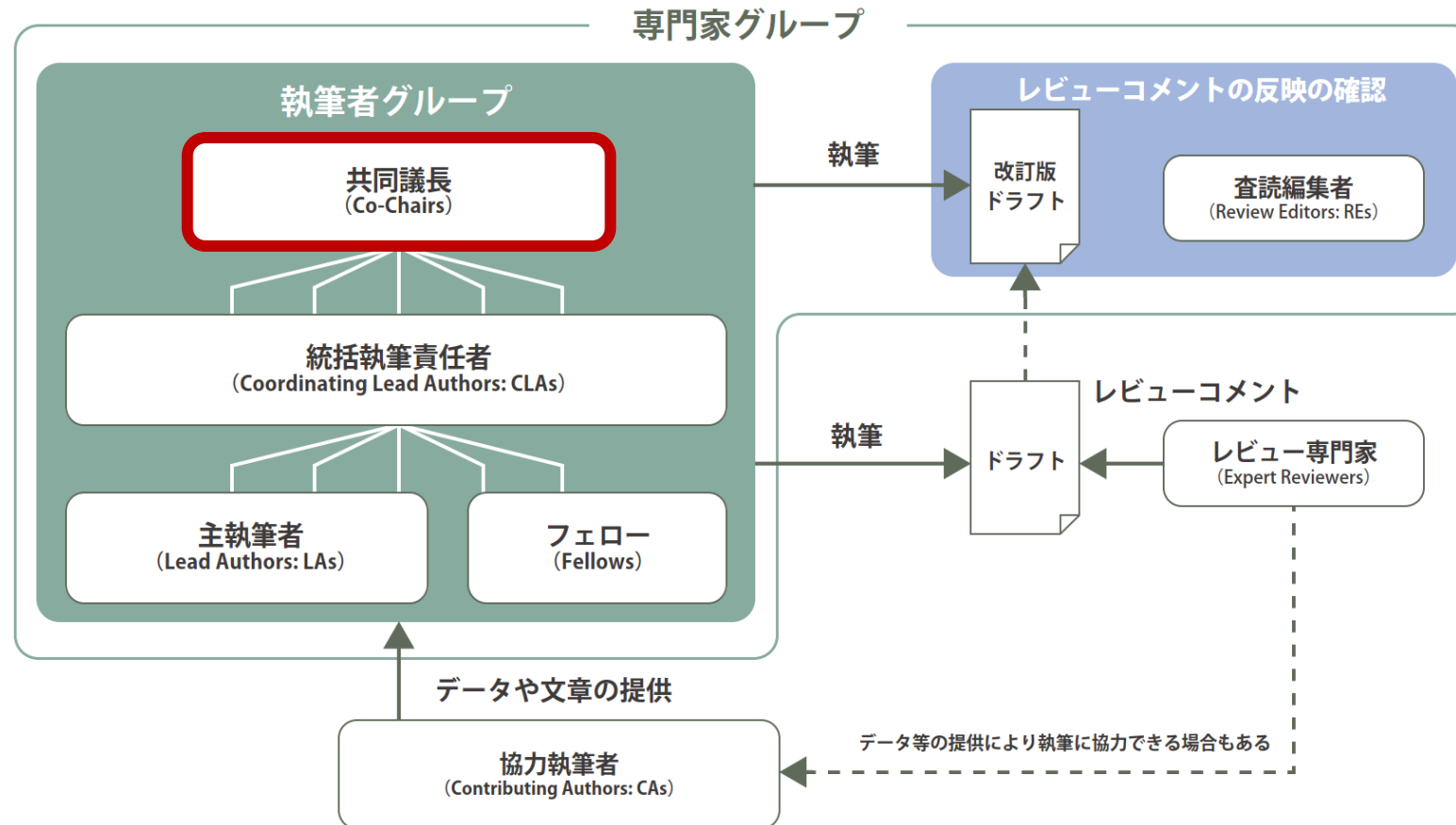
さまざまなやり取りがある中で、アフリカ地域選出のDavid Obura氏(ケニア共和国)が議長に選出、承認。任期は第13回総会まで(約3年)

5つの国連地域グループ



ビューロー選挙の影響

- David Obura氏は次回総会(ナミビア、2024)で審議予定のネクサス評価の共同議長(3名)の一人
- 共同議長はアセスメントに関わる執筆者グループ取りまとめ、政策決定者向け要約(SPM)の執筆の統括の他、評価報告書の第1章やの執筆を担当
- IPBES議長と共同議長の兼任は認められない可能性→報告書の取りまとめへの影響が懸念

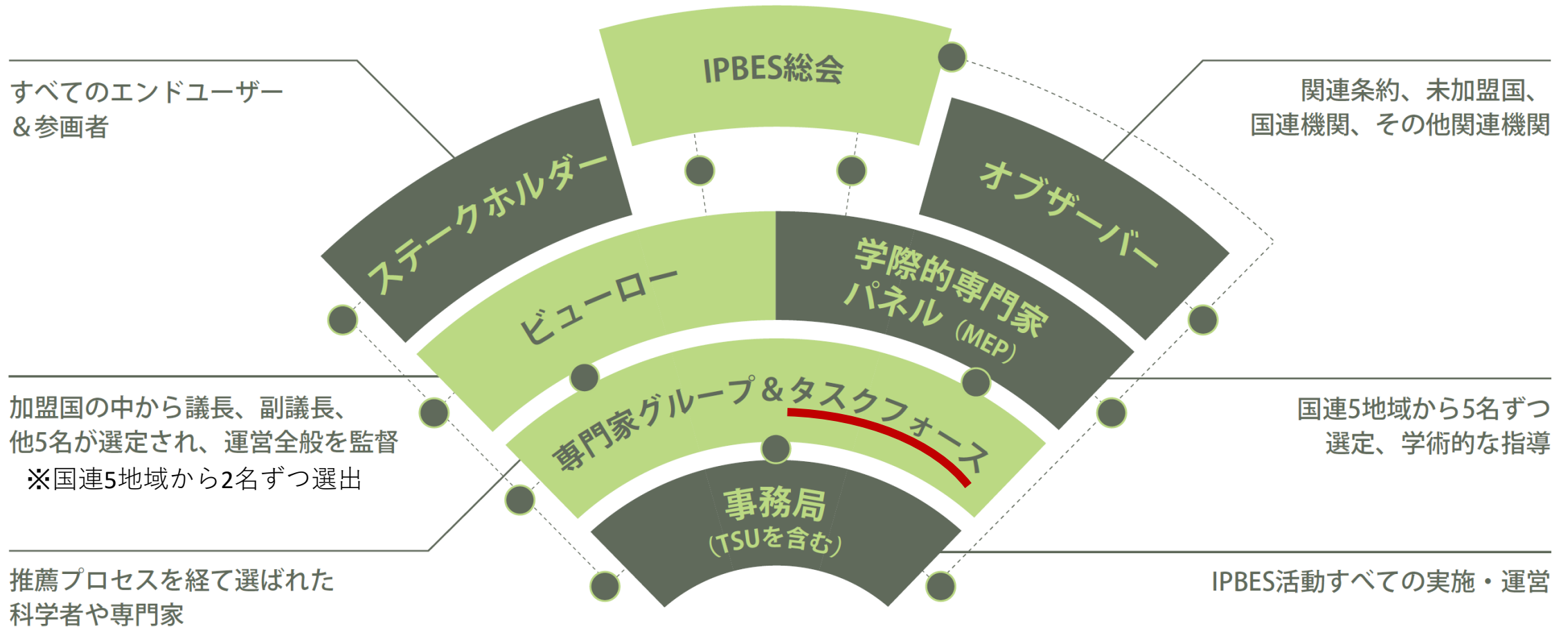


本日の話題

- 新規アセスメントのテーマの選定背景について
- ビューロー選挙について
- タスクフォースの再編について
- IPBESの今後の活動予定

IPBESの組織概要について:タスクフォース

加盟国*が参加し、概ね1年に1回開催



作業計画2019-2030(第2期作業計画)の5つの目的

目的2～4の遂行のため、5つのタスクフォースを設置

目的1

科学的評価（アセスメント）

- a) 生物多様性、水、食料、健康の相互関係の評価
- b) 生物多様性と気候変動の関連性の評価
- c) 生物多様性損失の根本的要因、社会変革の決定要因、2050年生物多様性ビジョン達成のためのオプションの評価
- d) ビジネスが生物多様性と自然の寄与に与える影響・依存度の評価

目的3

知見生成・データ管理強化

- a) 知識・情報・データに関する作業の進展
- b) 先住民・地域社会の知識体系（ILK）に関する作業の強化

目的5

コミュニケーション（広報）・参画

- a) コミュニケーション強化
- b) 政府の参画強化
- c) ステークホルダーの参画強化

目的2

能力養成

- a) 学習・参画の強化
- b) 専門知識及び情報へのアクセス促進
- c) 国レベル・地域レベルの能力強化

目的4

政策手法、政策支援ツール・方法論の開発・活用促進

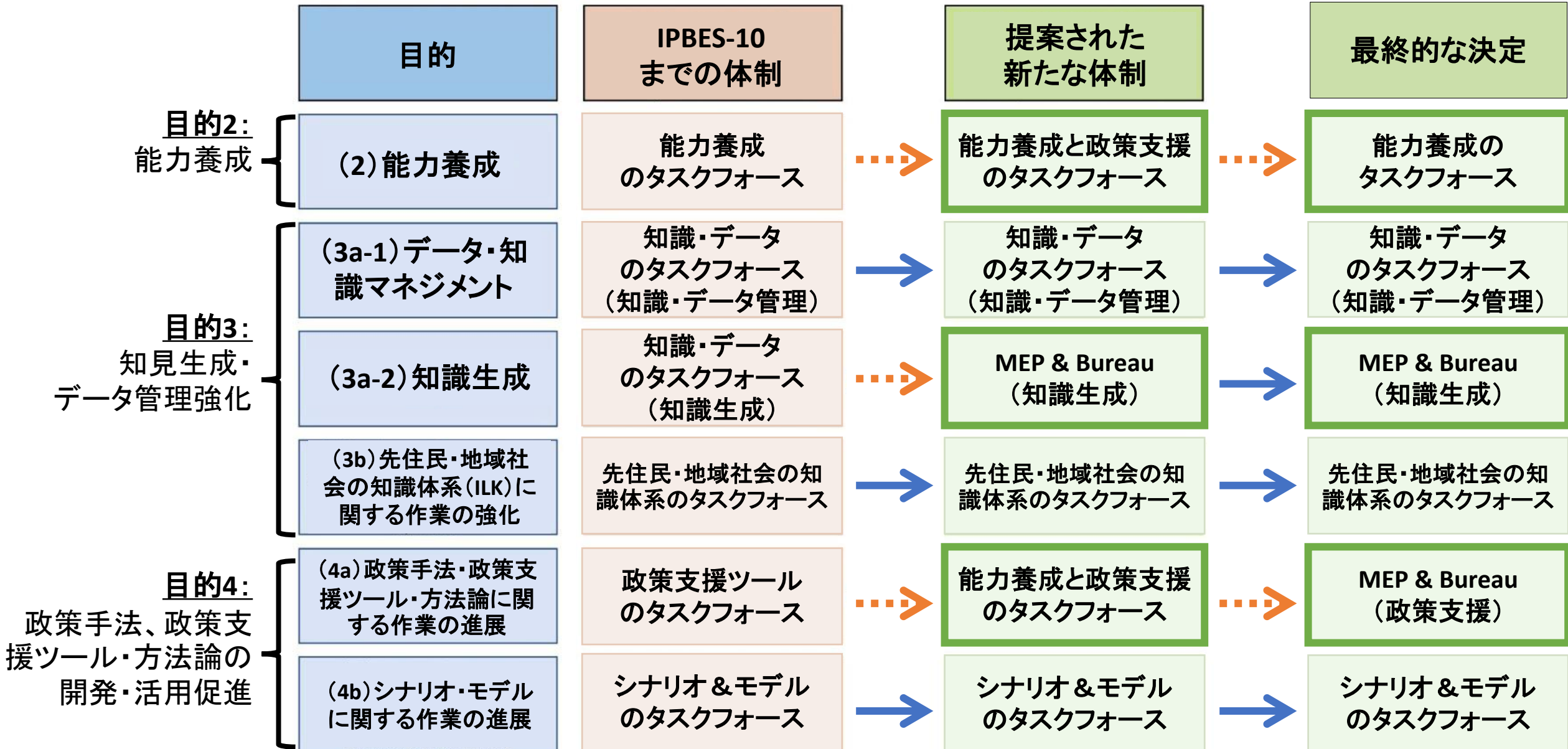
- a) 政策手法、政策支援ツール・方法論に関する作業の進展
- b) シナリオ・モデルに関する作業の進展
- c) 多様な価値に関する作業の進展

目的6

IPBES全体の効果改善

- a) IPBESの効果に関する定期的レビュー
- b) IPBESの概念枠組のレビュー
- c) アセスメント実施プロセスの効果改善

作業計画2019-2030の推進体制の見直し



本日の話題

- 新規アセスメントのテーマの選定背景について
- ビューロー選挙について
- タスクフォースの再編について
- IPBESの今後の活動予定

今後IPBES側で想定される動き(主要なもののみ抜粋)

- 第2次地球規模評価の詳細スコーピングレポート作成の専門家公募(2023年秋頃)
- ファースト・トラックアセスメントの専門家(著者)、技術支援機関(事務局)募集
 - モニタリング(2023年秋頃)
 - 空間計画・連結性(2024年夏頃)
- タスクフォース(①能力養成、②知識・データ、③先住民・地域社会の知識体系、④シナリオ & モデル)の専門家、技術支援機関(事務局)募集